

湖沼会議に参加 私たちの琵琶湖を伝えるために



▶ 守山高校からは7人の生徒が加した。



▲ 真剣な様子で会議を聞く本校生徒



▶ 会議は終始英語ですすめられた。

11月7日、琵琶湖博物館で行われた「第18回世界湖沼会議高校生会議」に本校の生徒3名が出場した。

世界湖沼会議は国際湖沼環境委員会(IHEC)と開催国の大学が共催している国際会議だ。第18回は2020年11月にメキシコで開催予定だったが、新型コロナウイルスの世界的流行により、1年延期し、リモートでの開催となった。その事前イベントとして高校生会議が行われた。

高校生会議では日本とメキシコの高校生がZoomを使ってそれぞれの湖やダムを紹介し、そこで起こっている環境問題や対策案を英語を用いてディスカッションした。日本からは本校と守山高校、メキシコからはグアナフアトから3校、グアダハラハラから1校が参加した。

湖やダムの紹介、現在起こっている環境問題についてのプレゼンの後、それぞれのチー



速報新聞
発行所
彦根東高等学校

キマグレ

新聞部
彦根市金亀町4番7号

世界湖沼会議とは



湖沼会議とは1984年に滋賀県の提唱により開かれた「世界湖沼環境会議」の後身として世界各地で開催されている。毎年世界各国から研究者や行政、市民、NGOが参加し、環境問題の解決に向けて議論している。オンライン開催となった今回は計50か国、約850人が参加した。



▲ 日本チームとして高校生会議に参加した本校と守山高校の生徒

ムが「湖沼の保全のために私たちができること」というテーマでアイデアを出し合い、ディスカッションをした。その後アメリカとケニアの高校生が行ったディスカッションの動画が紹介され、専門家からのコメントによって締められた。準備で大切にしたいことを会議に参加した浅見茉莉さん(1-1)は「自分たちの当たり前がメキシコの当たり前とは限らないので、何が伝わ

るのかを擦り合わせたことだ」と語った。また、西村果純さん(1-1)は準備の中で大変だったことを「英語が互いに母国語でないので、簡単な英語で伝えること」とあげた。松吉美奈帆さん(1-1)は「英語に不慣れなうえ、Zoomでのコミュニケーションが大変だった」と話した。会議を終えての感想を浅見さんは「スピーディーなやり取りの中で質疑応答をするのが大変だったのでそこを鍛えていきたい。また、もっと英語力やプレゼンの能力をあげていきたい」と微笑んだ。西村さんは「難しく大変だったが、楽しくいい思い出になった」とほほを緩め、松吉さんは「メキシコに行ってみたくて思った。メキシコの情報を琵琶湖に活かしていきたい」と笑った。